

DPC制度を活用した 医療費理解と保障設計

AFP 鈴木 英之

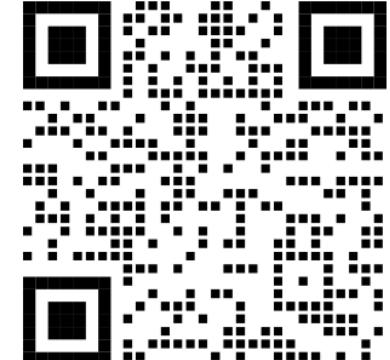
本日のゴール

- 公的医療保険制度、特にDPC制度の仕組みを理解する
- 顧客の状況に応じて、民間医療保険の活用を含めた選択肢を提示できるようになる。
- 保険加入の有無を含め、顧客が納得して判断できる情報提供を目指す

なぜ今この知識が必要か

- 顧客は情報過多の中で「自分に必要な保障」が分かりにくい
- 医療制度は変化し、入院日数は短縮傾向だが費用は高額化する場合も。
- 制度の保障のギャップを整理し、顧客の意思決定を支援する

医療保険クイズ

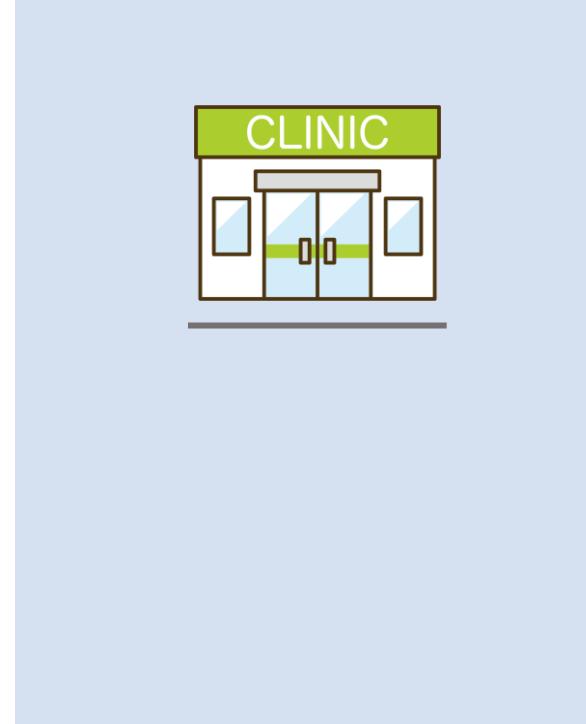
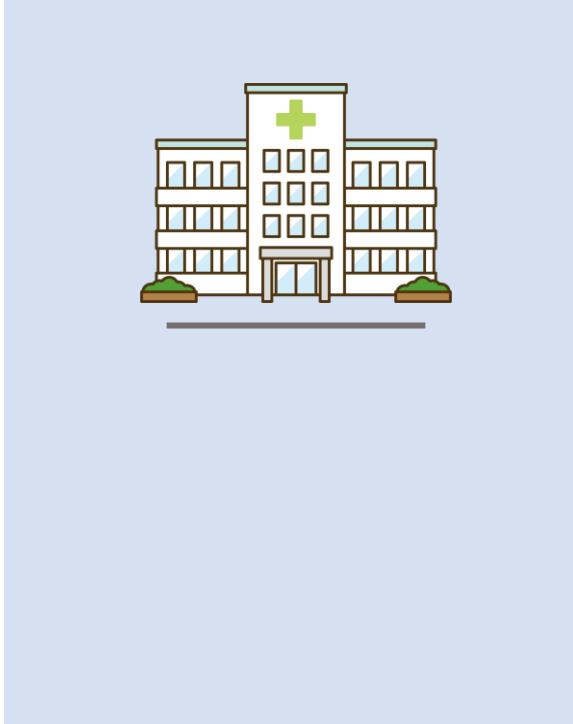


<https://manabu.club/new-contents/20251129/quiz.html>

目次

- | | | | |
|-----------|----------------------|-----------|----------------------|
| 01 | 日本の医療保険制度 | 05 | 民間医療保険の役割と
検討ポイント |
| 02 | DPC制度の仕組みと
特徴 | 06 | 保険の
選び方の視点 |
| 03 | 医療費の公的支援 | 07 | FPとしての
提案時の留意点 |
| 04 | ケーススタディで見る
医療費の実態 | 08 | まとめ |

病院と診療所(クリニック)の違い



変化する医療環境

入院日数の短期化

医療技術の進歩により、手術後の入院日数は年々短くなる傾向

高額化する医療

先進医療など、公的保険の適用外となる高度な治療も増えている

昔は長期入院だったが、現在は短くなっている傷病名

傷病名	平均入院日数 (現在)	平均入院日数 (20年前)	備考
虫垂炎	約3～5日	約7～10日以上	腹腔鏡手術の普及で短期化
鼠経ヘルニア	約1～3日	1週間以上	日帰り手術も可能に
胆石症	約3～5日	10日以上	腹腔鏡手術で回復が早い
白内障	日帰り～1泊	1週間前後	外来手術が主流

01

日本の医療保険制度

- 国民皆保険制度
 - すべての国民が何らかの公的医療保険に加入
- 自己負担割合は年齢・所得により異なる
 - 年齢や所得により1~3割の負担で済む
 - 高額療養費制度により負担割合はもっと低くなる場合もある
- 公的保険ではカバーできない費用も存在
 - 差額ベッド代、先進医療、食事代など

これらの費用をどう備えるかは、保険だけなく貯蓄なども含めた検討が必要

02

DPC制度の仕組みと特徴

PDPSの計算構造

入院医療費は、定額の「包括評価」と、変動する「出来高評価」の合計で決まります。

入院医療費 = 包括評価部分 + 出来高評価部分

包括評価（定額）

入院基本料、検査、画像診断、投薬、注射など

出来高評価（変動）

手術、麻酔、リハビリ、一部の高額な検査など

DPC/PDPSの仕組みを知ることで、保障額のシミュレーションが可能

入院医療費

PDPS(包括払い)

コース料理

病名や治療内容に応じた1日当たりの定額料金が基本
手術やリハビリなどは別途加算

- ✓ 医療費が予測しやすい
- ✓ 医療の質が標準化
- ✗ 過剰な医療行為は抑制

出来高払い

アラカルト(単品注文)

行われた診療行為(検査、薬、処置など)を
一つずつ積み上げて計算

- ✓ 医療の自由度が高い
- ✗ 医療費が高額になりやすい
- ✗ 費用が最後まで分かりにくい

病院側が独自で決めることができる費用例

項目	内容	金額目安
特別室料 (差額ベッド代)	個室・特別室などの利用	1日5,000円～
予約診療	時間指定の外来診療	500円～3,000円
専門医による診察指定	医師を指定する場合	1,000円～5,000円
時間外診療	通常時間外の診察	

03

医療費の公的支援

● 医療費控除（所得税の控除）

- 1年間に支払った医療費が一定額を超える場合、所得税の還付を受けられる制度

● 高額療養費制度

- 医療費が高額になった場合に、自己負担額の上限が超えた分を払い戻してもらえる制度

高額療養費制度

区分	年収	上限
ア	1,160万円～	252,600円+(医療費-842,000円)×1%
イ	770～1,160万円	167,400円+(医療費-558,000円)×1%
ウ	370～770万円	80,100円+(医療費-267,000円)×1%
エ	～370万円	57,600円
オ	住民税非課税	35,400円

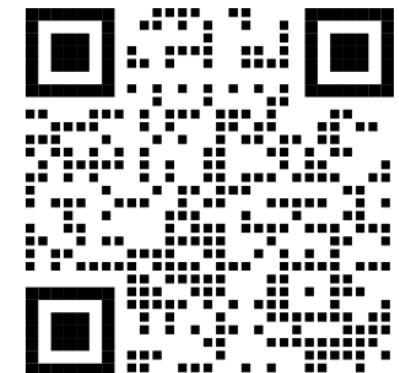
04

ケーススタディで見る 医療費の実態

シミュレーションツールを使って 医療費を計算してみましょう

虫垂炎と三大疾病のがん・心疾患・脳血管疾患
でシミュレーションをしてみましょう

シミュレーション



通院費用について

傷病名	通院一回当たり医療費 (自己負担3割)	月間通院回数（目安）
虫垂炎	-	-
がん	約50,000円	2～4回
心疾患	約17,700円	1～2回
脳血管疾患	約16,000円	1～2回

05

民間医療保険の役割と 検討ポイント

高額療養費制度の活用と限界

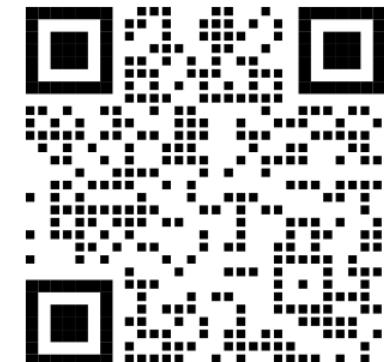
- 所得に応じて自己負担額に上限あり
- 差額ベッド代・食事代などは対象外
- 制度の理解と併用の検討が必要

保険の必要性は「制度で足りるかどうか」だけでなく、収入減少なども含めて考える

民間医療保険の役割と検討視点

- 自己負担分、公的保険対象外費用、収入減少などを補う手段の一つ
- 顧客の価値観やライフスタイルに応じて、必要性は異なる
- 保険以外の備え（貯蓄など）も含めて選択肢を提示

三大疾病
サポートシミュレーター



<https://manabu.club/new-contents/20251129/tmiss.html>

ライフプランニングの重要性

- 現状の収入と支出を把握する
 - 現在の状態が分からなければ、足りない金額も算出できない
- 制度(傷病手当金など)による収入や自己負担分、公的保険対象外費用、収入減少を把握する
 - 病気やケガになることで発生する問題を洗い出す
- 最終的にどうするか考える
 - 自己資金で足りるのか
 - 足りない部分は貯蓄や投資で準備するのか、保険を利用するのか

06

保険の 選び方の視点

保険選びのポイント

- 自己資金 VS 保険のバランス
- 必要保障額の根拠ある算出 (DPCの知識活用)
- 保険料の継続性と家計への影響
- 特約の選び方は「不安の種類」によって異なる

シミュレーション（医療費）

- がん（入院：16日）

- 1回の入院でかかる費用：約12万円
 - 通院で2年間の費用：約480万円

- 心筋梗塞（入院：14日）

- 1回の入院でかかる費用：約12万円
 - 通院1年間の費用：約42万円

- 脳梗塞（入院：30日）

- 1回の入院でかかる費用：約14万円
 - 通院半年間の費用：約19万円

シミュレーション（保険）

支払想定108万円(年額3.6万円*30年)

● がん

- 支給：23万円（入院）+ 48万円（外来）
- 詳細：入院一時金：10万円、入院：8万円（日額：5千円*16）、手術給付金：5万円
通院：48万円(5千円*96日)【月4回*24】

● 心臓疾患

- 支給：22万円（入院）+ 6万円（外来）
- 詳細：入院一時金：10万円、入院：7万円（日額：5千円*14）、手術給付金：5万円
通院：6万円（5千円*12）【月2回*6】

● 脳梗塞

- 支給：30万円（入院）+ 6万円（外来）
- 詳細：入院一時金：10万円、入院：15万円（日額：5千円*30）、手術給付金：5万円
通院：6万円（5千円*12）【月2回*6】

シミュレーション（貯蓄と投資）

支払想定108万円(年額3.6万円*30年)

- **貯蓄**

- 年利：0.2%
- 貯蓄金額：111万円

- **投資**

- 年利：5%
- 貯蓄金額：245万円

- **投資**

- 年利：7%
- 貯蓄金額：352万円

07

FPとしての
提案時の留意点

提案時の留意点

- 顧客のニーズと価値観を最優先
- 保険は「安心の手段」であり、不安を煽るものではない
- 制度変更への対応
- 高齢者や持病のある方への配慮

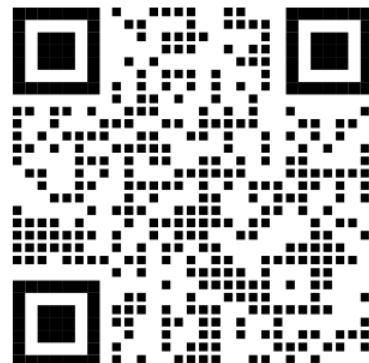
08

まとめ

まとめ

- DPC制度の理解は、医療費の予測と保障設計に役立つ
- 公的制度と民間保険は「補完関係」であり、選択肢の一つ
- FPの役割は、顧客が納得して選べるように
情報を整理・提供すること

※理解度チェック



<https://gemini.google.com/share/3d44c78a9e28>

ご清聴ありがとうございました。